

Topics

被災地の現状まとめ新聞制作

震災15年で神田外語大

神田外語大（千葉市美浜区）の学生が東日本大震災発生から15年の節目にあたり、福島県の被災地取材し、復興の現状をまとめた新聞「福島とともに」を制作した。グローバル・リベラルアーツ学部の柴田真一特任教授のゼミに所属する3年生19人が昨夏、津波と東京電力福島第1原発事故で被害を受けた浜通り地域を訪れ、復興途上にある被災地について学びながら考えた。

新聞では「未来創る英知と覚悟」という大きな見出しを掲げ、新たな特産品作りや農業の再生に挑戦する若者を取りあげた。また、帰還したいが

戻れない元住民の存在や、風化への懸念といった課題も伝えている。

新聞は1万5000部印刷され、4日に東京・霞が関の復興庁を訪れて瀬戸隆一副復興相に手渡された。裏面には英語版も掲載され、海外提携校を通じ世界にも発信する。

【尾崎敦】